

れのある野生動物. 420pp., 高知県文化環境部環境保全課・大塚健之, 2008. キベリフトカミキリモドキ広島県からの記録. 月刊むし, (449): 47.

宮武睦夫, 1985. カミキリモドキ科. 400-409pp., 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛の編著, 原色日本甲虫図鑑(III), 保育社.
溝田浩二, 1998. 日本産カミキリモドキ分布地図: 文献記録の整理, 自然誌研究年報, 3: 89-114. 長野生物研究所.

Švihla, V., 2008. New acts and comments. Oedemeridae. p. 45, Löbl, I. and A. Smetana eds., Catalogue of Palaearctic Coleoptera Volume 5, Apollo Books.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】クリノウスイロクチキムシの記録

クリノウスイロクチキムシ (クリノクチキムシ) *Allecula (Allecula) kurinoensis* Maeda et Nakane, 1988 は、鹿児島県栗野岳で同時に得られた9頭をもとに記載された種である。その後、木元(2004)によって、福島県、茨城県、奈良県の記録が追加されているが、それ以降の記録はほとんどないものと思われる。また、本種はナミウスイロクチキムシ (ウスイロクチキムシ) *A. (A.) bilamellata* Marseul, 1876 に酷似することから、その多くは“ウスイロクチキムシ”として記録されているのではないかと推測される。筆者らは、多くの方々からクチキムシ類標本の提供を受け、その中から以下のように本種の標本を見出すことができたので、記録しておきたい。

北海道の標本は確認できなかったが、青森県北部に分布することから、渡島半島には分布している可能性が高い。本州では青森県から山口県に至るほぼ全域、四国全県、九州もほぼ全域で確認することができた。離島では伊豆大島、三重県尾鷲市桃頭島、壱岐の標本を確認することができた。クリノウスイロクチキムシはナミウスイロクチキムシによく似るが、より大型で、手元の標本では6.5-8.9 mmであった。ただし、原記載には6-7 mmとあり、ホロタイプの実測値は6.6 mmとこの種としては最小クラスの標本である。手元にあるナミウスイロクチキムシ196頭の体長は、5.4-6.8 mmであるから、体長が7 mmを超す個体は、まず本種であると考えられる。体の膨隆はやや弱い。脚はやや長く、後腿節がより細い。♂交尾器は、ナミウスイロクチキムシのように基片基部が大きく曲がらないので長く見える。手元の標本を計測すると、ナミウスイロクチキムシの2.1-2.4 mm (N=7) に対し、本種は2.7-3.1 mm (holotype: 2.9 mm) (N=7) であった。体サイズの違いによる交尾器サイズの差は認められない。交尾器が摘出されている♂であれば、肉眼でも容易にその差を識別できる。記

載ではウスイロクチキムシとの違いに色彩が黄赤褐色であることが挙げられているが、これについては変異が大きく、タイプシリーズ自体が十分に成熟していない個体である可能性が高い。また、同時に毛がやや長いとされているが、これについても個体変異が大きく、区別点としてはあまり有効ではない。ただし、ホロタイプ標本は、たしかに毛が長めである。木元(2004)は、前胸背板の点刻がより大きいことを区別点として挙げているが、これは体サイズの差を反映している可能性がある。

いわゆる「ド普通種」であるウスイロクチキムシと同時に得られることが多いが、それに比べると個体数ははるかに少ない。

なお、北海道大学博物館に保管されているホロタイプの借用を許可していただいた大原昌宏博士、標本を恵与、もしくは貸与して下さった多くの方々(標本データに記入)に感謝したい。

<被検標本>

ホロタイプ: 1♂, “Kurino, Kago- / shima, 7. vi. / '80 T. Nakane // 502 // HOLOTYPE // *Allecula / kurinoensis / Maeda & m. / Det. T. Nakane // NAKANE Coll. / SEHU JAPAN / 1999 // 0000003962 / Sys. Ent / Hokkaido Univ. / JAPAN [SEHU]” (鹿児島県)*

その他の標本: 青森県: 1♂, 外ヶ浜町

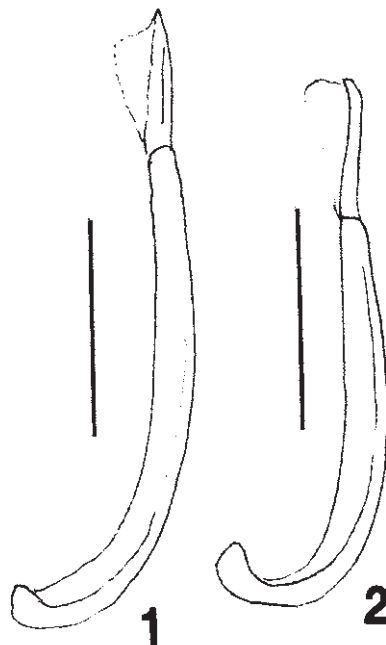


図1. クリノウスイロクチキムシ (Holotype) ♂交尾器;
図2. ナミウスイロクチキムシ (兵庫県産) ♂交尾器. Scales: 1.0 mm.

Sotoguroyama, 22. VII. 2009, 亀澤洋; 岩手県: 1♀, 岩手山, 15. VII. 2014, 高橋敬一; 宮城県: 1♀, 蔵王町遠刈田, 31. VIII. 2007, 福澤卓也; 福島県: 1♂, いわき市江田, 21. VI. 1986, 大桃定洋; 1♂, いわき市四時川溪谷, 29. V. 1983, H. Sakaguchi; 1♂, 西郷村真名子, 25. V. 1985, 大桃; 茨城県: 3♀♀, 城里町御前山, 2. VII. 2014, 高橋; 栃木県: 1♀, 日光市湯元, 28–30. VIII. 2013, 益本仁雄; 3♂♂, 3♀♀, ditto, 1,500 m, 4. VIII. 2013, 平山洋人; 1♂, ditto, 21. VII. 2013, 平山; 4♂♂, 2♀♀, 日光市稲荷川, 24. VII. 2014, 高橋; 群馬県: 2♀♀, 上野村乙父沢, 8. VIII. 2008, 関章弘; 上野村 Nagatozawa, 8. VII. 2008, 関; 埼玉県: 1♀, 飯能市 Bônomine, 28. VI. 2012, 福澤; 千葉県: 1♀, 君津市郷台畑, 6. V. 1995, 木元達之助; 東京都: 1♀, 多摩町日原一石山~人形山, 800–1,100 m, 2. VII. 2013 (乾燥樹洞内壁面), 亀澤; 1♂, ditto, 28. VII. 2013, 亀澤; 1♀, 東京都伊豆大島三原山, 11. VII. 1981, A. Izumi; 1♂, 伊豆大島元町~波浮, 4–5. VI. 2012, 藤田宏; 長野県: 1♀, 木島平村カヤノ平, 1,450 m, 26. VII. 2000, 秋田; 2♂♂, 原村立場川, 9. VII. 1999, 島田孝; 1♀, 木曾町開田高原, 8–9. VIII. 2010, 益本・高橋; 岐阜県: 1♂, 中津川市夕森山, 1,200 m, 19. IX. 1998, 亀澤; 静岡県: 1♂, 1♀, 川根本町梅地, 28. VII. 2010, 石川均; 1♀, ditto, 3. VI. 1997, 石川; 1♀, 同地, 17. VII. 1997, 石川; 三重県: 1♂, 1♀, 菰野町朝明溪谷, 400–600 m, 29. VI. 1991, 秋田; 1♀, 菰野町御在所岳, 26. VII. 1966, 官能健次; 1♂, 美杉村平倉, 2. VIII. 1985, 秋田; 1♂, 同地, 11. VII. 1986, 秋田; 1♂, 同地, 4. VII. 1993, 秋田; 1♂, 同地, 27. VI. 1994, 秋田; 伊勢市朝日谷, 4. VI. 2002, 官能健次; 3♂♂, 4♀♀, 南伊勢町

剣峠, 360 m, 16. VI. 2008, 秋田; 1♂, 尾鷲市桃頭島, 3. VI. 2001, 天満智憲; 奈良県: 1♀, 奈良市春日山, 100–200 m, 17. VI. 2006, 秋田; 1♂, 同地, 7. VI. 2008, 秋田; 兵庫県: 2♂♂, 2♀♀, 神戸市北区六甲山紅葉谷, 3. VII. 2007, 中峰空; 1♀, 笹山町, 1. VII. 1982, 林靖彦; 山口県: 1♂, 岩国市錦町長野山~馬糞ヶ岳, 29. VI. 2011, 田中伸一; 10♂♂, 5♀♀, 周南市長野山, 29. VI. 2011, 田中; 1♂, 同地, 7. VIII. 2013, 田中; 2♂♂, 山口市阿東町徳佐上, 14. VI. 2013, 田中; 香川県: 1♀, 大滝山, 19. VI. 1960, 中條道崇; 徳島県: 1♂, 東祖谷山村三嶺, 900–1,500 m, 22. VII. 1997, 秋田; 1♀, 海南町鰻轟山, 1,000 m, 29. VII. 1997, 秋田; 1♀, 山川~四季美谷, 17. VII. 2010, 青木淳一; 1♀, 剣山スーパー林道高城, 18. VII. 2010, 青木; 愛媛県: 1♂, 西条市石鎚山金山谷, 24–25. VII. 1997, 秋田; 高知県: 4♂♂, 2♀♀, 仁淀川町雑誌山, 1,000 m, 20–22. VII. 2007, 養老孟司; 長崎県: 1♀, 壱岐市箱崎 Onnadake, 11. VII. 2013, 田中伸一; 熊本県: 2♂♂, 2♀♀, 八代市縦木白鳥山, 2. VIII. 2008, 野田亮; 大分県: 1♂, 竹田市久住町坊ガツル, 20–21. VIII. 2011 (FIT), 三宅武; 佐伯市宇目北川ダム, 18. VI. 2013, 三宅.

引用文献

- 木元達之助, 2004, クチキムシ亜科甲虫の分布記録. 甲虫ニュース (145): 7–14.
 Maeda, M. & T. Nakane, 1988, New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XL. Family Alleculidae. Review of Miyazaki Sangyo-Keiei University, 1: 1–10.

(秋田勝己 514-1136 津市久居東鷹跡町 170-2)
 (益本仁雄 130-0014 墨田区 3 丁目 14-13-1001)



ヒラタムシ上科に関する論文

ヒラタムシ上科に関する分子系統論文が 2 本出たので紹介する。

McElrath, T.C., J. A. Robertson, M. C. Thomas, J. Osborne, K. B. Miller, J. V. McHugh and M. F. Whiting, 2015. A molecular phylogenetic study of Cucujidae s.l. (Coleoptera: Cucujoidea). *Systematic Entomology*, 40: 705–718.

Robertson, J.A., A. Šlipiński, M. Moulton, F. W. Shockley, A. Giorgi, N. P. Lord, D. D. McKenna, W. Tomaszewska, J. Forrester, K. B. Miller, M. F. Whiting and J. V. McHugh, 2015. Phylogeny and classification of Cucujoidea and the recognition of a new superfamily Coccinelloidea

(Coleoptera: Cucujiformia). *Systematic Entomology*, 40: 745–778.

前者では狭義のヒラタムシ科とその近縁グループを主に解析している。

後者では、今回示された系統仮説に基づいて多くの分類学的措置も行われている。大きなところとしてはこれまで cerylonid series と言われていたクレードに対しテントウムシ上科 Coccinelloidea を提唱。また、Byturidae と Biphylidae をカッコウムシ上科 Cleroidea に移動している。

(愛媛大学ミュージアム 吉富博之)